

# 佛陀と共に

令和五年十二月法話 薬師寺管主 加藤朝胤

## 如来と菩薩(じょうぶいとぼさつ)

### 如来 ㊦ ㊰ tathagata の漢訳

修行を完成した人

人格完成者

向上に努めた人

真理の体現者である佛のこと

悟りの完成に到達した佛

真如より来生するもの

真如から来て(真理の体現者として)衆生を教え導く

という活動的な側面からする佛の名称

## 佛の十号

如来(によらい)真如から来現した人

應供(おうぐ)人間と神から尊敬・供養される資格のある人

正遍知(しょうへんち)完全に真理を悟った人

明行足(みょうぎようそく)三明の智慧と身体・言語の行為とが完全に具わった人

善逝(ぜんぜ)善く悟りの境地に行ける人

世間解(せけんげ)世間・出世間のことを知悉する人

無上士(むじょうし)至上の人

調御丈夫(ちようぎよじょうぶ)衆生を制御する御者たる人

天人師(てんにんし)神々と人々との師である人

婆伽梵(ばぎやぼん)煩惱を超越した徳のある優れた尊い人

## 釈迦八相

- |    |     |       |     |      |
|----|-----|-------|-----|------|
| 因相 | ①受胎 | ②出生   | ③受樂 | ④苦行  |
| 果相 | ⑤成道 | ⑥初転法輪 | ⑦入滅 | ⑧分舍利 |

## 釈尊は何故出家されたのか・何を悟りになったのか

差別の打破 縁起の法 原因と結果 縁 真理

## 如来唄

如来妙色身  
世間無与等  
無比不思議  
是故今敬礼  
如来色無尽  
智慧亦復然  
一切法常住  
是故我帰依

釈迦如来 (過去世)

薬師如来 (現在世)

阿弥陀如来 (未来世)

## 菩薩 ㊦ bodhisattva の音訳 菩提薩埵

覚有情 大心衆生 大士 開士

悟りの成就を欲する人

悟りの完成に努力する人

佛陀となるべく道心を起こして修行する求道者

佛の智慧を得るため修行している人

自ら佛道を求め、他人を救済し、悟らせる人

上に向かって菩提を求め、下に向かって衆生を教化しようとする人

在家・出家を通して発心して佛道を行ずる人

## 菩薩戒

大乘戒・佛性戒

三聚浄戒 摂律儀戒 止悪 悪をとどめ

摂善法戒 修善 善を修め

摂衆生戒 利他 他の人のために尽くす

## 菩薩形

在家の姿を映して垂髪であり、多くは宝冠をいただき、天衣をまとい、  
頸・胸は華鬘・瓔珞で飾り、柔和な相

## 釈迦八相

### 薬師寺東塔 西塔の釈迦八相像

東塔（国宝）は、白鳳時代を代表する建造物として白鳳文化の真髓と讃えられています。西塔は、享祿元年（一五二八）の兵火によって焼失しましたが、般若心経のお写経の功德により、昭和五十六年四月に創建当時の姿に蘇りました。

長和四年（一〇一五）に撰述された『薬師寺縁起』に、東西両塔の内陣にお釈迦様の生涯を現した「釈迦八相像」が祀られていた事が記されています。当初の釈迦八相像は、塑像で作られていた為、江戸時代には著しく破損していて、現在は八相像残欠（重要文化財）として別保存されています。

東塔には、お釈迦様が釈迦国の王子として誕生し、出家し悟りに至る前半生を因相として令和五年四月に、西塔には成道後入滅までの後半生を果相として平成二十七年に復興しお祀りしています。

### 東塔 因相

#### ①受胎

お釈迦様の母マヤ夫人は、ある夜六牙の白象が右脇から入る夢をご覧になりました。ゴータマシッダールタ（お釈迦様）の懐妊です

#### ②出生

出産の為実家に帰る途中、ルンビニ園で休憩されました。美しく咲き誇る無憂華の花を一枝手折ろうとした瞬間、王子様がお生まれになりました。西暦紀元前五六五年四月八日の事でした。

#### ③受楽

釈迦族の皇太子としてお生まれになったゴータマシッダールタ（お釈迦様）は、二十九歳まで優雅な生活を過ごされました。不平等な現実疑問を抱き、人々の幸せを願い出家を決意されました。

#### ④苦行

地位も名誉も財産も全て捨て、断食の苦行を六年間続けられました。しかし肉体を苦しめても悟りを開く事が出来ない事に気付き、尼連禪河で沐浴しスジャータから乳粥の供養を受け、健康を回復されました。

### 西塔 果相

#### ⑤成道

苦行を捨てたゴータマシッダールタは菩提樹の下で瞑想にふけり、暁の明星の輝きを得てお悟りを開かれました。西暦紀元前五三一年十二月八日早暁の事でした。

#### ⑥初転法輪

お悟りを開かれたお釈迦様は、鹿野苑で五人の比丘に「縁起の法」を説かれました。しかし五比丘は全く理解できませんでした。お釈迦様がお悟りになった「縁起の法」を最初に理解したのは舍利子でした。お釈迦様は四十五年間に亘り布教活動を続けられました。

#### ⑦入滅

八十歳のお釈迦様は、クシナガラで病に倒れ、沙羅双樹の林で入滅されました。西暦紀元前四八六年二月十五日の事でした。空には満月が輝き、多くのお弟子様をはじめ動物や鳥や虫までもお釈迦様の最期を悲しみました。

#### ⑧分舍利

マツラ族の習慣に従い、お釈迦様を荼毘（火葬）に付しました。佛舍利は八ヶ国に分けられました。佛舍利信仰の始まりです。

### 八大聖地

ルンビニー	（藍毘尼）	生誕の地
ブツダガヤ	（佛陀伽耶）	成道（悟り）の地
サルナート	（鹿野苑）	初転法輪の地
ラージャグリハ	（王舎城）	布教の地
サヘトマヘト	（祇園精舎）	コーサラ国の舎衛城
ヴァイシャリー	（毘舍離城）	最後の旅の地
クシナガラ	（俱尸那城）	涅槃（死）の地
サンカシヤ		三道宝階の地